

第 1 回「京都市小学校教科書選定委員会」会議概要

1 日時

平成 29 年 5 月 15 日（月） 18 時 30 分から 19 時 50 分まで

2 会場

京都市総合教育センター 永松記念ホール 他

3 出席者

(1) 選定委員 35 名

(2) 教育委員会事務局 10 名

在田教育長，清水教育企画監，佐藤指導部長，清水指導部担当部長，
諏佐学校指導課長，関学校指導課担当課長，安藤統括首席指導主事，
手塚統括首席指導主事，坂本首席指導主事，安居首席指導主事

4 議事

教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後，調査研究部会（低学年部会，中学年部会及び高学年部会）で協議が行われた。

(1) 在田教育長から挨拶及び平成 30 年度から平成 31 年度まで京都市立小学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書の選定についての諮問を行った。

(2) 安居首席指導主事から教科書選定の進行，公正確保等についての説明を行った。

(3) 委員の互選により委員長に藤田弘明委員が，副委員長に浅井和行委員が選出された。

(4) 調査研究部会全体会で，業務内容説明及び部会長，副部会長の選出が行われた後，各部会において，調査研究における「選定の視点」や調査研究方法，今後の部会開催日程について協議が行われた。

第2回「京都市小学校教科書選定委員会」会議概要

- 1 日 時 平成29年6月19日（月）18時30分から20時20分まで
- 2 会 場 京都市総合教育センター 1階 第2研修室
- 3 出席者 (1) 選定委員
学識者及び保護者代表6名の委員を含め35名（1名欠席）
(2) 教育委員会事務局
清水教育企画監，佐藤指導部長，清水指導部担当部長，諏佐学校指導課長，
関担当課長，安藤統括首席指導主事，手塚統括首席指導主事 他

4 議 事

- (1) 藤田委員長から挨拶が行われた。
- (2) 部会ごとに部会長，副部会長及び指導主事から，現時点での調査研究の状況についての報告を行った後，学識者及び保護者の委員からの意見を踏まえ，協議した。
(当日は，選定委員会と並行して，各調査研究部会も開催された。)

<主な意見>

- ・1年生の教科書について，最初から文字量が多いものもあるが，どのように認識しているのか。
- ・ノート形式以外の分冊がある教科書について，連動が見えにくいのが，使用にあたっての留意する点はいかがか。
- ・教科書と視聴覚教材との関連はいかがか。
- ・教科書を通じて児童と保護者が道徳的価値等について話し合うことが大切であるが，各社の工夫はいかがか。
- ・児童と保護者の家庭での対話について，どのようなあり方を想定しているのか。
- ・各教科書について，使いにくい点などもしっかり明示すべきである。
- ・教員が使いやすいという観点が重要。
- ・ユニバーサルデザインの観点も大切である。
- ・別冊ノートについて，書くことが苦手な児童への配慮から，書きやすく，また，消しやすい素材であるかどうかも考慮してほしい。
- ・母子家庭や児童養護施設の児童は，「おとうさん，おかあさん」との文章に感情移入しにくいという懸念もあるのでは。
- ・教科書を家庭に持ち帰れば事前に読んでくる児童もおり，発問が書かれていればその想定を行う児童もいると考えられるが，授業のやりづらさはないのか。

第3回「京都市小学校教科書選定委員会」会議概要

- 1 日 時 平成29年7月10日（月）18時30分から20時10分まで
- 2 会 場 京都市総合教育センター 1階 第2研修室
- 3 出席者 (1) 選定委員
学識者及び保護者代表6名の委員を含め32名（4名欠席）
(2) 教育委員会事務局
清水教育企画監, 佐藤指導部長, 清水指導部担当部長, 諏佐学校指導課長,
関担当課長, 安藤統括首席指導主事, 手塚統括首席指導主事 他

4 議 事

- (1) 藤田委員長から挨拶が行われた。
- (2) 担当指導主事から答申案についての説明を行った後、学識者及び保護者の委員からの意見を踏まえ、協議した。
(当日は、選定委員会と並行して、各調査研究部会も開催された。)

<主な意見>

- ・意見書や要望書についてどのように対応しているのか。
- ・教科書にめあてや発問等が提示されている方が、多くの教員にとって使いやすいと思う。
- ・児童が授業を振り返る際にノートは有効であり、評価の視点からもノートがある方が望ましいと思う。
- ・サイズの大きい教科書は低学年の子どもには使いづらいと思う。
- ・教科書にめあてや発問等が提示されている方が、児童が考えるきっかけとなり、よいと思う。
- ・児童が教科書を使ってどう学ぶかがポイントである。教科書にめあてや発問等が提示されていれば、家庭で授業を振り返る際に使いやすく、また、保護者と授業について話し合う際にも有効である。
- ・日本文教出版のノートは、低学年のものは記入欄が1マスごとに区切られており、紙質も書きやすく、児童の発達段階に配慮していると思う。
- ・日本文教出版の教科書は、ノートに「友達の考えを記入する欄」が設けられており、よく工夫されていると思った。